

35

【難易度】…標準

数列 $\{a_n\}$ を次のように定義する.

$$a_n = \int_{-\pi}^{\pi} (\sin^n x + \cos^n x) dx$$

このとき、次の各問いに答えよ.

- (1) a_1, a_2 を求めよ.
- (2) n が奇数のとき, $a_n = 0$ となることを示せ.
- (3) n が偶数のとき, a_n と a_{n-2} の関係式を求めよ.
- (4) a_{10} を求めよ.

【テーマ】: 三角関数の積分

方針

n が奇数のときは、定積分の値は 0 になり、偶数のときは漸化式を作ります。誘導されています。漸化式を作るときは、部分積分法を利用します。

解答

$$\begin{aligned}
 (1) \quad a_1 &= \int_{-\pi}^{\pi} (\sin x + \cos x) dx & a_2 &= \int_{-\pi}^{\pi} (\sin^2 x + \cos^2 x) dx \\
 &= 2 \int_0^{\pi} \cos x dx & &= 2 \int_0^{\pi} dx \\
 &= 2 \left[\sin x \right]_0^{\pi} & &= 2 \left[x \right]_0^{\pi} \\
 &= 0 \cdots \cdots (\text{答}) & &= 2\pi \cdots \cdots (\text{答})
 \end{aligned}$$

(2) 【証明】

 n が奇数のとき, $f(x) = \sin^n x$ とおくと,

$$f(-x) = \sin^n(-x) = (-\sin x)^n = -\sin^n x = -f(x)$$

となるので, $y = f(x)$ は奇関数であり, 同様にすると, $y = \cos^n x$ は偶関数であることが示されるので,

$$a_n = 2 \int_0^{\pi} \cos^n x dx$$

となる. ここで, $x - \frac{\pi}{2} = t$ とおくと, $dx = dt$ であり,

右の表より,

x	0	→	π
t	$-\frac{\pi}{2}$	→	$\frac{\pi}{2}$

$$a_n = 2 \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \cos^n \left(t + \frac{\pi}{2} \right) dt$$

$$= 2 \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (-\sin t)^n dt$$

$$= -2 \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \sin^n t dt$$

$$= 0 \quad (\because \sin^n t \text{ は奇関数なので, 定積分の値は 0 になる})$$

よって, 題意は示された.

(証明終)……(答)

(3) n が偶数のとき, $y = \sin^n x + \cos^n x$ は偶関数となるので,

$$\begin{aligned} a_n &= 2 \int_0^\pi (\sin^n x + \cos^n x) dx \\ &= 2 \int_0^\pi (\sin x \sin^{n-1} x + \cos x \cos^{n-1} x) dx \\ &= 2 \left[-\cos x \sin^{n-1} x + \sin x \cos^{n-1} x \right]_0^\pi \\ &\quad - 2 \int_0^\pi \{ -(n-1) \cos^2 x \sin^{n-2} x - (n-1) \sin^2 x \cos^{n-2} x \} dx \\ &= 2(n-1) \int_0^\pi \{ (1 - \sin^2 x) \sin^{n-2} x + (1 - \cos^2 x) \cos^{n-2} x \} dx \\ &= 2(n-1) \int_0^\pi (\sin^{n-2} x + \cos^{n-2} x) dx - 2(n-1) \int_0^\pi (\sin^n x + \cos^n x) dx \\ &= (n-1)a_{n-2} - (n-1)a_n \end{aligned}$$

ゆえに, $na_n = (n-1)a_{n-2}$ となるので, $a_n = \frac{n-1}{n} a_{n-2} \cdots$ (答)

(4) (1), (3) の結果より

$$\begin{aligned} a_{10} &= \frac{9}{10} \cdot \frac{7}{8} \cdot \frac{5}{6} \cdot \frac{3}{4} \cdot a_2 \\ &= \frac{9}{10} \cdot \frac{7}{8} \cdot \frac{5}{6} \cdot \frac{3}{4} \cdot 2\pi \\ &= \frac{63}{64} \pi \cdots \cdots \text{(答)} \end{aligned}$$

◇ ♡

解説

本問では a_n を求めることまでは問うてないが, 実は (3) で求めた漸化式から a_n を求めることができる. 式変形がちょっと難しいが, 参考までに次のような式変形の仕方も知っておいてもらいたい.

$n = 2m$ のとき, (3) で得られた漸化式から,

$$\begin{aligned} a_{2m} &= \frac{2m-1}{2m} \cdot \frac{2m-3}{2m-2} \cdots \frac{5}{6} \cdot \frac{3}{4} \cdot a_2 \\ &= \frac{(2m)(2m-1)(2m-2)(2m-3) \cdots 4 \cdot 3}{\{(2m)(2m-2)(2m-4) \cdots 6 \cdot 4\}^2} \cdot 2\pi \\ &= \frac{(2m)!}{\frac{2 \cdot 1}{2^{m-1} m(m-1)(m-2) \cdots 3 \cdot 2} \cdot 2} \cdot 2\pi \\ &= \frac{(2m)!}{2^{2m-2} \{m(m-1)(m-2) \cdots 3 \cdot 2\}^2} \pi \\ &= \frac{(2m)!}{2^{2m-2} (m!)^2} \pi \end{aligned}$$

となるので, $m = \frac{n}{2}$ であることから, $a_n = \frac{n!}{2^{n-2} \left(\frac{n}{2}!\right)^2} \pi$ である.

ゆえに, これと (2) の結果から,

$$\begin{cases} n \text{ が奇数のとき, } a_n = 0 \\ n \text{ が偶数のとき, } a_n = \frac{n!}{2^{n-2} \left(\frac{n}{2}!\right)^2} \pi \cdots \cdots \text{(答)} \end{cases}$$

となるのである. これを用いても (4) は解答することができる.

$$a_{10} = \frac{10!}{2^8 \cdot (5!)^2} \pi = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6}{2^8 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} \pi = \frac{63}{64} \pi \cdots \cdots \text{(答)}$$